

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和3年度第4回 理事会議事録

令和3年5月31日（水）20:00～22:00

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、西良浩一、田中信弘、
高相晶士、筑田博隆、千葉一裕、根尾昌志、長谷川和宏、
波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

松山幸弘理事長が議長となり、開会を宣して議事に入った。

理事長挨拶

松山理事長が、第50回学術集会の盛会のうちに閉幕できたことは、根尾先生のご尽力と理事会全体のサポート、また閉幕翌日から緊急事態宣言発令という国家的な状況が大きくかかわっていたと考えると意見を述べた。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

松山理事長が、前回議事録について確認を求めた。追加で修正等ある場合は、渡辺理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（5月分）

5月の入退会について全員を承認した。

3. JSR編集委員会より：NL、関連学会情報について

・NLに他学会セミナー告知の件

側弯症学会の研修セミナーについてJSSRのNLで告知できないかと提起した。理由としては、今回はwebの開催なので全国どこからでも参加できることと、成人脊柱変形なども網羅している内容であり一般の会員にも有益と考えるからであると提案した。

「JSSR共催」でないセミナーをJSSRのNLで扱ってしまうと、他の団体のセミナー等にとの公平性が保てなくなってしまうと意見があった。審議の末、広報委員会にて他学会のイベントをJSSR学会HPに掲載できる特設ページを作成しているが、NLの中に「関

連学会からのお知らせはこちら」というような部分を作ってワンクリックでその情報へ飛べるようにすると、公平性を保って多くの会員に周知できるため、そうすることで意見が一致した。

・第50回発表者で抄録集（紙）に氏名が掲載されている会員のうち、参加費を支払わなかった発表者を、電子版抄録集（アーカイブス）へも氏名掲載をするかについてアクセプトされた発表で紙面の抄録集には掲載されたが、参加費を支払わなかったケースが11件あり、一同検討の結果、その11件については電子版の抄録には掲載しないことになった。

4. 専門医制度委員会：専門医試験結果等について

第50回学術集会時に行った第11回脊椎脊髄外科専門医試験の結果について、今まで同様の80%以上の得点率を合格ラインとする結果が示され、一同承認した。

受験者人数：196名

合格者数：195名

不合格者数：1名

5. 関連学会連携検討委員会：内容開示とアンケート調査について

前回理事会でも確認した委員会名や委員会の立ち位置、遂行すべきこと等をまとめ再度確認を促した。

- ①脊椎関連の学会の在り方、各関連学会の連携促進は本学会が主導していくこと
- ②各関連学会理事同士の交流、意見交換が重要であること
- ③5-6年先の実現を念頭に時間をかけて調整していくこと
- ④共催・協賛企業および各学会の会員の意向を十分に反映すること

以上、理事会全員で確認した。

6. その他 ヒストリアン委員会について

第50回学術集会において玉置名誉会員からヒストリアン委員会の設置の提案をいただいたと報告した。

ヒストリアン委員会の立ち上げには一同賛同した。千葉理事が担当理事となって委員会を組織し、次回理事会にてメンバーを発表して、承認ののち委嘱、その後に活動を開始することとなった。

2. 審議・決議事項

1. 倫理委員会報告

前回理事会以降の研究計画承認について報告した。また、厚労省の倫理審査委員会報

告システムへの登録も完了したことも報告した。

学会主導のアンケートフォームの作成について

① のちに論文化するようなものについては事務局にデータが蓄積されるような形で行ってほしいこと

② 今後事務局にて web アンケートを構築する場合は web アンケート作成の設計図となる「紙の状態のアンケート」を事務局に提示すること、

を今後学会主導の研究等を行っていく委員会に周知することとなった

また、神経根ブロックについてのプロジェクト研究については、使用する3種類のステロイドの中の1種類が、添付文書上脊椎分野で使えることになっておらず、審査にかなり時間を要してしまった旨説明があった。

さらに、人を対象とする倫理指針の改訂版が6月30日から施行されるので、それに合わせて倫理委員会の規程も修正していく必要があり、その際は定款等検討委員会にも協力していくこととなった。

2. 広報委員会報告

ホームページ掲載業務の進捗等について報告した。学術集会関連の記事や写真の掲載を行うべく、原稿執筆依頼を行ったことなどが報告された。

3. 国際委員会報告

・ APSS-APPOS

伊東理事が、APSS-APPOS2021 が今月開催されるが、レジストリーが527件、ペーパーも423件集まり、収入についても黒字で開催できそうであると報告した。

コロナ禍で聴衆は入れずに座長と演者のみが集合して行うが、それぞれ無理のないようにして参加いただきたいと述べた。

松山理事長が、APSS 会長として、当学会から多くの演題や参加をしてもらったことに謝意を述べた。

・ ASSI とのオンラインミーティング

また、ASSI (Association for Spine Surgeons in India) が JSSR と協同でオンラインミーティングを希望してきたので、資料にあるようなオンラインセッションを行うことになったと報告した。

・ ATF

令和2年の申請者が、コロナウィルス感染症の拡大により、まだ予定していた派遣ができておらず、令和3年は募集も取りやめた状況にあるなかで、令和4年をどうするか検討したいと提起した。

松山理事長が理事会全員の意見を徴収し、東南アジアの国々への派遣を今年募集するのは難しいとして今年の募集はしないと結論付けた。

ただし、ATF の応募には年齢制限があるため、世界的に自由に渡航ができるようになったら、年齢枠の緩和や募集人数の上限を上げるなど、ここ数年応募できなかったことによる不利がなるべく生じないようにすることになった。

3. データベース委員会報告

新技術レジストリーの進捗状況を報告した。また 2021 年秋からスタート予定のレジストリー「JSSR-DB 2021」について前回からの進捗や概要を再度報告した。ロードマップの改訂版も示され、本登録の開始は 2021 年 9 月を予定していることが報告された。

6 月中にベンダーのリーズンホワイにてシステムを製作するが、プロトタイプ構築時などに、理事会各位にはご意見をいただく予定と説明し、一同了解した。また会員に登録を依頼する際には、何度も周知を行い、多くのデータを集めたいと希望を述べた。

松山理事長が、本件のデータクレンジングを担当してもらった優秀な人材を採用したと報告した。

小澤監事が、日整会の内視鏡のデータベースと術式等を統一する件はどうかと質問し、筑田理事が術式名を統一することはとりあえず行うが、それ以上のことについては将来的に考えていくことになるかと回答した。

5. JSR 編集委員会報告

長谷川理事が、学術集会のアプリの開発について大正製薬が今後も無償提供してくれるのかどうか担当者に尋ねた結果を報告した。

第 51 回までは問題ないが、その後は未定との回答であったため、日整会の学術総会アプリを作成している業者や、大正製薬からの情報や、もう 1 社ほどそういったアプリを作成できる業者を探すなどして準備を進めていきたいと発言した。

6. 専門医制度委員会報告

波呂副理事長が、専門医機構の専門医の準備状況を説明した。

7. 新技術評価検証委員会報告

Globus 社から仙腸関節固定スクリューをはじめとする新製品について相談があった件、XLIF 症例数、各 WG の業務経過、2022 年以降のレジストリー移行についてなどを報告した。

Shilla については日本側彎症学会で適正使用基準を策定したが、当学会とも連携して検討したほうが良いことが多いと発言したところ、松山理事長が主要メンバーを当学会の委員に委嘱するなどして協力体制を強めてはどうかと提案した。渡辺理事が細金委員長とも相談し、進めていくことになった。

6. 学術集会プログラム報告

根尾理事が、今後の学術集会の予定について報告した。

7. その他の委員会報告

社保委員会の大鳥理事が、2021 年第 1 回 JSSR-NSJ 社会保険合同委員会が 5 月 28 日開

催され、脊椎関連の保険に関して共同で進めていくことになったこと、そのメンバーなどを報告した。

今後の予定としては、2022年度要望書類の提出をするために、2021年7-12月JSSR評議員からの意見徴収やNSJと定期的な意見交換をし、2022年2月にJSSRとNSJの合同委員会にて要望を決定。2022年4月の外保連に報告する予定であると説明した。

8. 第50回学術集会会長より：学術集会報告

根尾理事が、第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会報告を行った。

1. 現地参加人数：833人（内有料会員数 633人）
2. 参加登録人数：2400人+ α （招待などすべて含む。ほぼコロナ前と同数）
3. 現地開催後登録（オンラインのみ）：100人以上あり。
4. オンデマンド配信閲覧数トップ10

予想以上に教育的な基礎講座を聴講した参加者が多かったので、今後のプログラムの参考にしてほしいと意見を述べた。

以上のように盛会のうちに終了できたことについて謝意を述べ、理事会一同も慰労した。

以上

令和3年5月31日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭